

2024年8月27日

高知大学共通教育科目「土佐の海の環境学: 柏島の海から考える」  
第7回宿毛湾大学 オンライン座談会(ミニシンポ)  
自走する持続可能な里海づくり: シマからの視点

DC セミナー指定 (博士)(文系)

日時: 2024年9月8日(日) 9:00-12:00(予定)

場所: Zoom によるオンライン開催

問題提起: 「自立自走を目指す里海づくり」(神田優)

話題提供の講義: 「離島における里海づくりとシマづくり」(鯨本あつこ)

パネル・ディスカッション(五十音順)

コーディネーター: 石筒覚(高知大学地域協働学部准教授)

パネリスト(敬称略):

神田優(NPO 法人黒潮実感センター・理事長)

鯨本あつこ(NPO 法人離島経済新聞社代表理事)

『ritohei(リトケイ)』統括編集長として、「島の宝を未来につなぐ」ことを目的に、国内400島余りの有人離島地域の情報発信および地域振興のサポートを行う。地域づくりや編集デザインの領域で事業プロデュース、人材育成、広報ディレクション、講演、執筆等に携わる。2児の母。現在は日田～那覇を生活拠点に全国の島々を飛びまわる。2012年ロハスデザイン大賞ヒト部門受賞。美ら島沖繩大使。



## 【概要】

人の積極的な関与により海をより豊かにし、人の生活と海の自然環境・生態系の共存を図ろうという「里海」の考え方は世界に広がりつつあり、「里海づくり」は、日本全国で様々に取り組まれています。

柳哲雄によれば、里海とは「人手が加わることで生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」を指します。海的环境保全のためには、人為的な影響をできるだけ減らすべきとの考え方もありますが、人手を順応的に加えることで、沿岸域の生物多様性・生産性が高まる事例もまた多くあります。パネリストである神田優は柳哲雄とほぼ時を同じくして、独自の視点から里海概念を提起し、活動の中で実践してきた先駆者です。「人が海を耕し育み守り、海の豊かさを享受する」という神田の里海概念は、彼の活動に裏打ちされたものであると同時に、その活動の指針となって実質化してきました。

このように「里海」の背後には、地域の人による環境保全と資源管理の取り組みがあります。しかし、その取り組みが持続可能であるためには、その取り組みが地域の人々の生活を支える経済的基盤の一つとなって、地域の経済と結びつくことが必要です。

言い方を変えれば、里海づくりは、それにより一定の収益を生み出し、取り組みを行う人々の生活を支えることができなければ、持続可能ではあり得ません。

里海づくりを経済活動として成り立たせるのは簡単なことではありませんが、日本全国で取り組まれている様々なアプローチをつきあわせることにより、里海づくりを自立の軌道に乗せる道をこの座談会では考えます。そのために、パネリストとして柏島で里海づくりに取り組む神田優氏、離島の里海づくりに詳しい鯨本あつこ氏に参加いただき、話題提供をお願いして、議論を行って行きたいと思います。

### 【参加方法】

参加をご希望の方には、Zoom の ID を発行いたします。

メールでお送りしますので、下記 URL の入力フォームから、9/7(土)17時までに必要な情報をご入力下さい(土佐の海の環境学の受講者は不要です)。

短縮 URL: <https://forms.office.com/r/dtc9L8GyZZ>

※この入力フォームに入力いただいた個人情報は、ご連絡や座談会への参加者把握等の目的以外には使用いたしません。

主催： 高知大学黒潮圏総合科学専攻・黒潮圏科学部門  
NPO 法人黒潮実感センター

### 【照会先】

大学院総合人間自然科学研究科 黒潮圏総合科学専攻 新保輝幸 email: [shinbo@kochi-u.ac.jp](mailto:shinbo@kochi-u.ac.jp)